

◆ 今週のコメント

- ・ RSウイルス感染症の報告が3例(6～11ヶ月, 1歳, 2歳 各1例)あり, 第33週から5週連続であります。第33週～第37週の累積報告数をみると, 平成16年～平成19年の同時期(0～3例)と比べて, 9例と最も多くなっています。また, 年齢階級別では, 1歳 4例(44.4%)が最も多く, 次いで0～5ヶ月, 6～11ヶ月 各2例(22.2%)となっています。

◆ 今週のトピックス:〈腸管出血性大腸菌感染症〉

- ・ 今週は, 2例報告があり, 累積報告数は75例となっています。平成11年～平成19年の同時期(20例～48例)と比較して最も多くなっています。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 9例(喀痰塗抹陽性 3例, 無症状病原体保有者 1例)
【1月以降の累積報告数 271例(喀痰塗抹陽性 88例, 無症状病原体保有者 24例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2) 2例 【1月以降の累積報告数 75例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.68	110
	② 手足口病	0.85	35
	③ ヘルパンギーナ	0.46	19
	④ 突発性発しん	0.44	18
	⑤ 水痘	0.41	17
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

病原体情報

ありません。

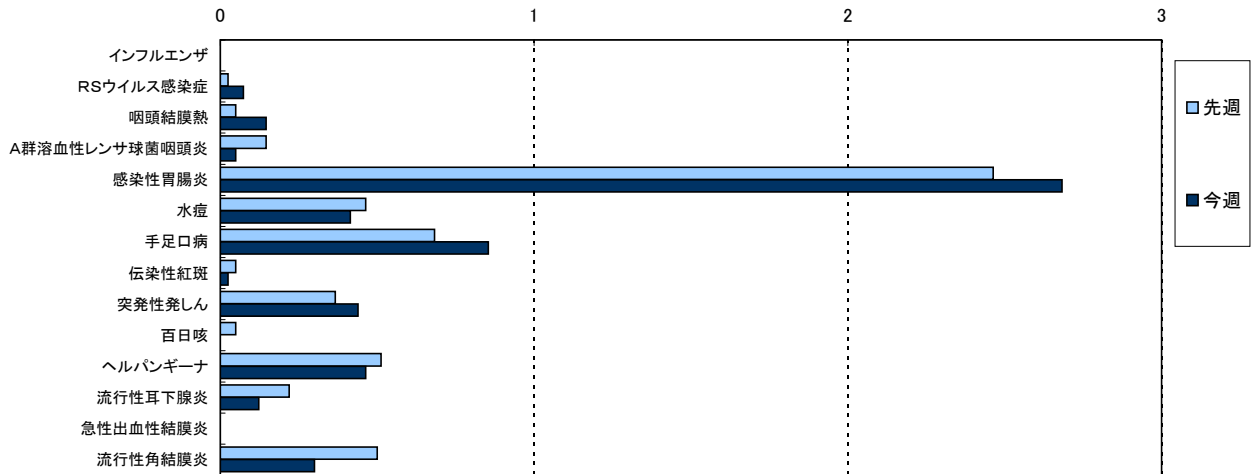
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈腸管出血性大腸菌感染症〉

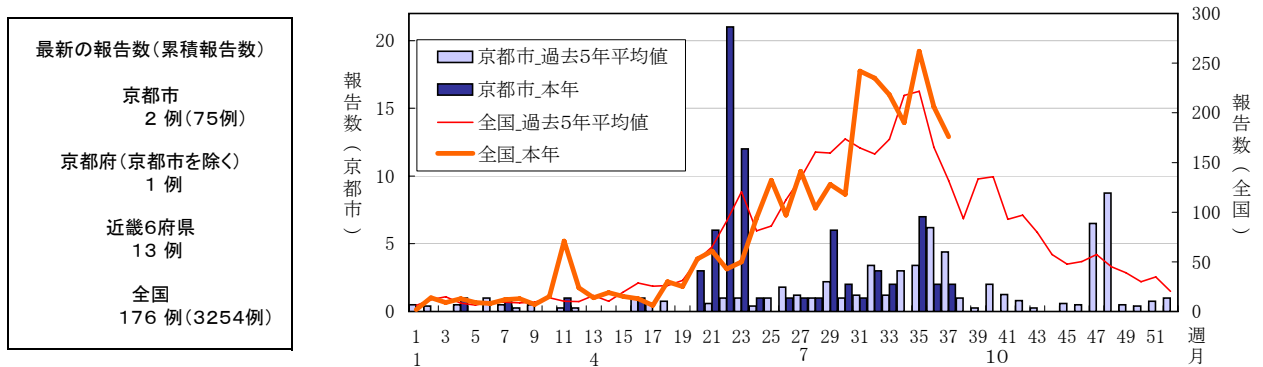
(注) 京都市のデータは, 平成20年9月18日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在の保健所での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は, 病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第37週)と先週(第36週)の定点当たり報告数の比較

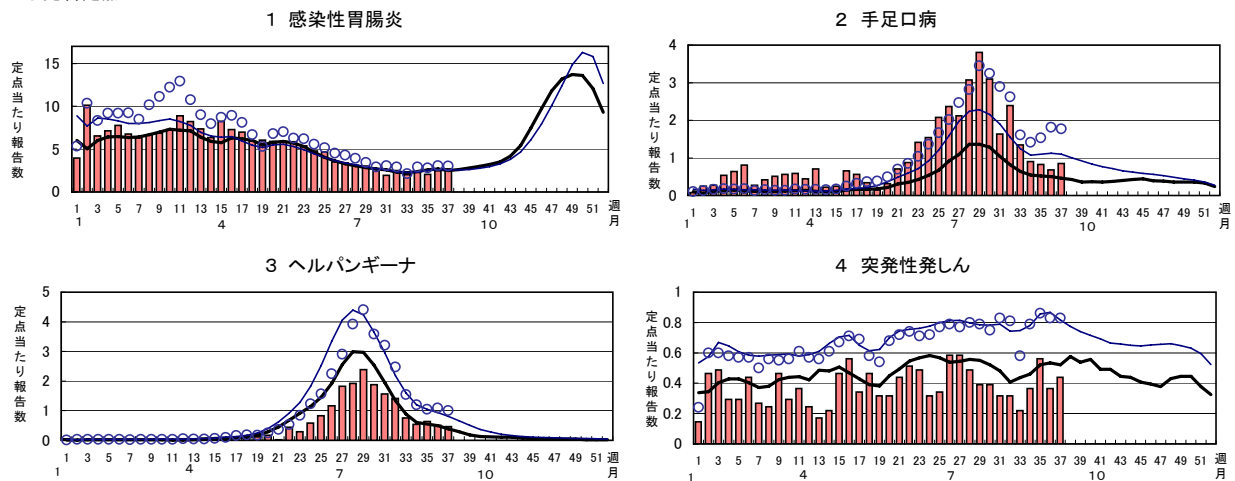


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

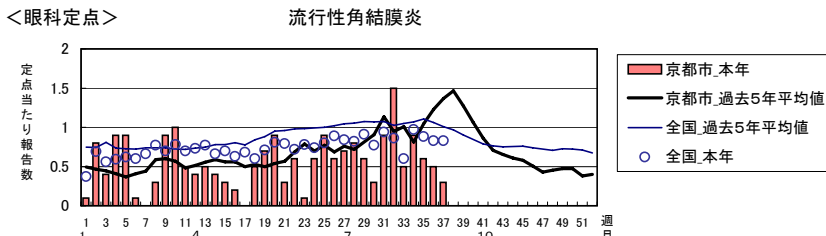


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



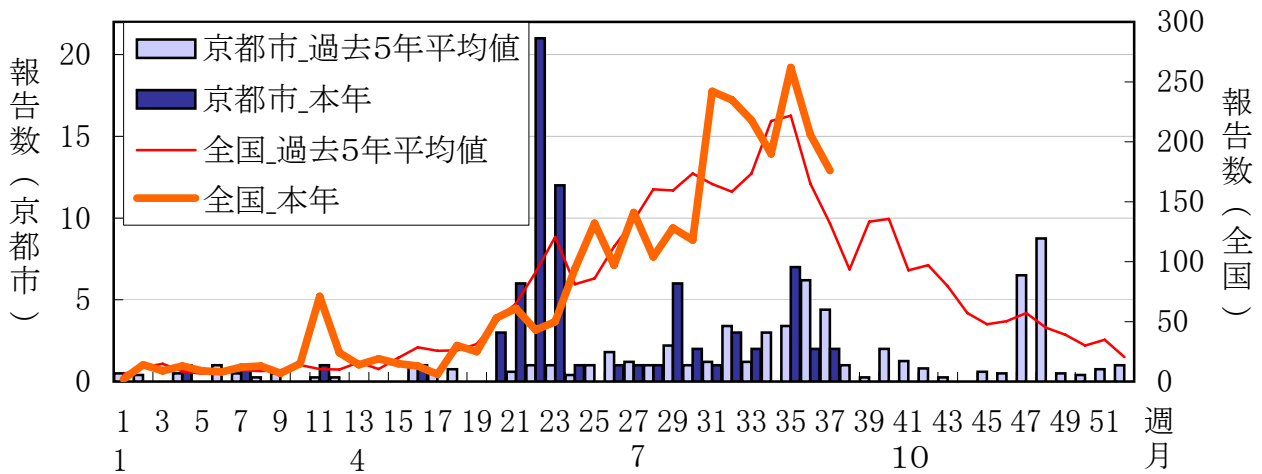
今週(第37週)のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

今週は、2例報告があり、累積報告数は75例となっています。平成11年～平成19年の同時期(20例～48例)と比較して最も多くなっています。

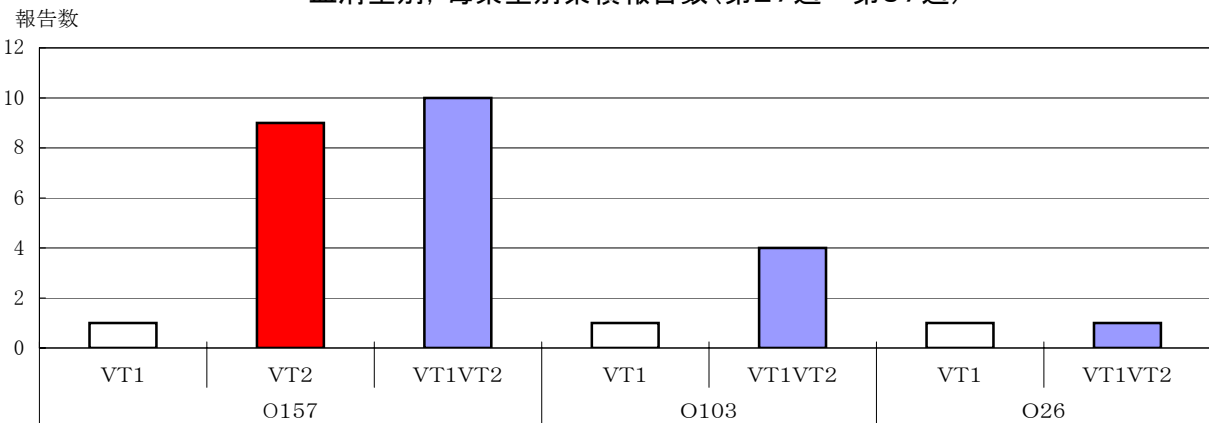
本年の第1週～第37週の報告数推移をみると、第20週から報告数が増加し、第22週、第23週の集団発生で報告数はピークになり、以降第37週まで、ほぼ連続して報告されています。

第27週～第37週をみると、血清型別、毒素型別累積報告数では、O157は、VT1VT2が10例、VT2が9例、VT1が1例。O103は、VT1VT2が4例、VT1が1例。O26は、VT1及びVT1VT2がそれぞれ1例で、腎毒性が強いVT2を含む毒素型が多く報告されています。感染状況別では、第34週を除いて、第29週(1例)、第30週(1例)、第35週(4例)で家族内感染が報告されており、それ以外では、すべて散発報告となっています。また、年齢群別では、20～29歳(9例)の報告が最も多く、次いで0～9歳、10～19歳(各5例)となっており、0～29歳の割合が70%を占めています。

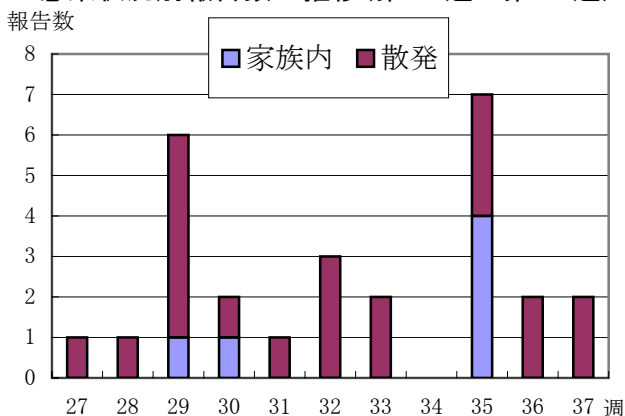
京都市及び全国の報告数の推移(平成20年第1週～第37週)



血清型別、毒素型別累積報告数(第27週～第37週)



感染状況別報告数の推移(第27週～第37週)



第27週～第37週の年齢群別報告数の割合

